The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年1月号　通巻37号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

ハクビシン続伸

タヌキよりも生息数が多いのかも？

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
タヌキ	2	2	7	6	8	9	23	47	104	156	175	152	127
ハクビシン			1				2	4	18	42	149	175	237
アライグマ				1					3	4	11	13	19

東京タヌキ探検隊！データベースより、東京都23区での各年の目撃情報数(2011年12月31日現在)。目撃年がはっきりしている情報を後に追加したものもある(そのため、今後も情報数は増加する)。メールでの情報以外に新聞などのメディア、Webでの情報、宮本自身の目撃、聞き取り情報なども含む。

全世界のタヌキスキーの皆様、明けましておめでとうございます。いや、ハクビシニストやアライグマニアの皆様も、と言うべきでしょうか…。東京タヌキタイムズも4年目、今年もよろしくお願いします。

ハクビシンの生息数は？

まずは上の表をご覧いただきましょう。これは東京タヌキ探検隊！データベースでの各年の目撃情報数です。こうしてみると前半は何にもやることがなかったということがバレバレですね(苦笑)。目撃情報が急速に増えたのは、これらの動物たちの数が増えたということではありません。パソコン、インターネット、ネット検索といったテクノロジーが十分に普及したからです。タヌキよりもハクビシンの増加が遅れているのは、ホームページでタヌキ以外の動物の情報提供を本格的に呼びかけたのが2008年以降だからです。表の数字と実際の生息数はまったく別物だということに注意してください。

だとしても、ハクビシンの目撃情報数の急激な増加には驚きです。2011年にはついにタヌキの2倍近くにまでなりました。ということは、ハクビシンはタヌキの2倍の生息数があるのでしょうか？

実はそうとは言い切れないのです。ホームページのアクセス解析をしてみると、検索語のトップは「ハクビシン」で、ダントツの31%。2位は「ハクビシン 画像」で7.6%、3位は「タヌキ」で5.5%です　(2011年1～12月の集計)。他の検索語を含めてもハクビシンの方が注目されているのは確実です。また、タヌキに出会って驚くよりも、ハクビシンに出くわして驚く可能性の方が高いのかもしれません。特に、電線を歩く謎の動物を目撃した人はかなり驚くことでしょう。それやこれやの理由から、ハクビシンの方が目立ってしまっている可能性が考えられるのです。目撃情報の数だけで実際の生息数を推測することは現段階ではできないのです。それでも、おおざっぱにはハクビシンはタヌキと同程度の規模で生息しているのだろう、という推測はしていいでしょう。

比較対象としてのハクビシン

東京「タヌキ」探検隊！なのにハクビシンやアライグマも調べるというのは奇妙に見えるかもしれません。しかし私は比較対象になる動物がいてくれることに感謝しています。比べる相手がいるからこそ、それぞれの動物の特徴がよくわかってくるようになり、その結果タヌキの研究にも役立っているのです。ですので今後もハクビシンやアライグマやアナグマやキツネの目撃情報をどんどん教えてください。もちろんタヌキもです！

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

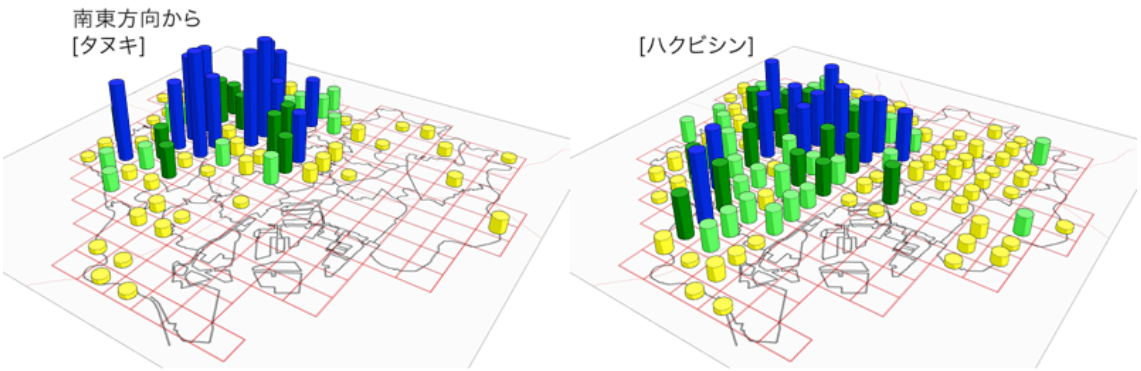
2012年2月号　通巻38号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

あまり気付かれにくい新情報のこと

毎年恒例の報告書、こういうところにも注目を



タヌキとハクビシンの目撃情報(2009～2011年)の分布地図を3Dで表現した図を今回の報告書では新たに加えた。ハクビシンの方が広く分布していることがわかる。

今年も恒例の東京タヌキの報告書をホームページで公開しました(「東京都23区内のタヌキ、ハクビシン、アライグマの目撃情報の集計と分析(2012年1月版)」)。詳細は報告書を読んでいただくとして、ここではちょっと違った読み方を紹介したいと思います。

新たに掲載した情報

毎年のように同じような報告書を公開しているので、今回もあまり大差ないのでは？と思われているかもしれません。確かにタヌキやハクビシンの生態が毎年大きく変わるようなことはありませんので、内容にも大変化は起こりにくいものです。

それでもこれまでにない情報を追加するように努力しています。今回それがわかりやすいのが、アライグマについての目撃情報の分析の詳細や分布地図を初めて掲載したことです。アライグマの目撃情報は3年間でたった43件だけですので、統計的には十分な数とは言えません。それでも、アライグマの生息数は今後も増加するだろうことを考えると、注意を喚起するためにも詳細な情報を載せる時だと判断したのです。

細かな情報の追加としては、「ハクビシンの体色」「ハクビシンの食べる果実」などがあります。本文中に紛れ込んでいますので探してみてください。ハクビシンの体色は3種類の型があり、その比率には地域差があるのではないかと考えられます。体色の情報を本格的に集め始めたのは昨年からですので、情報数はまだ少ないものです。数年以内には統計的にも十分な数になるでしょう。ハクビシンが何を食べているかは、多くの目撃情報からいろいろとわかってきました。その大半は果実ですが、他に何を食べているかは継続的な研究課題です。

全国の目撃情報を収集中！

ところで、東京タヌキ探検隊！の情報収集の対象は東京都23区だけではありません。以前から東京都だけでなく神奈川県など近隣の情報も集めていましたが、昨年からは対象を全国に拡大しました。情報を収集するなら地域を限定する必要はない、と判断したのです。その成果は報告書にも載せていますが、東京都23区を除くと得られた情報数はわずかなものです。全国の皆様、目撃情報をぜひ知らせてください。

ところで、東京以外の、タヌキ以外の動物の情報も集めるとなると「東京タヌキ探検隊！」という屋号との不一致が気になるところです(笑)。それでもやはり調査研究の原点と核心は「東京タヌキ」であることに変わりはありません。ですので屋号の変更は考えられないのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年3月号　通巻39号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

どこで買ったかマドレーヌ？

フンから出てきた奇妙な物

（左）フンの中から出てきたマドレーヌの敷き紙。（右）マドレーヌの実物。これはスーパーで買ってきた「プチマドレーヌ」という商品（製造：株式会社よこい風月）。

今回の話は2008年のことですが、いまだに解決していないので紹介することにしました。

フンから出てきた「紙」

2008年11月、私は杉並区阿佐谷南の民家敷地にあるタヌキのためフンを回収しました。さっそくそれを水洗いしてみると、中から明らかに異質な感じの物体が出てきました。その材質は紙のように思えましたので、慎重に破れないように水の中で広げていきました。すると、その紙には文字がはっきりと印刷されていました。「マドレーヌ」と。

念のため説明しますと、マドレーヌはふわふわの焼き菓子で、カップ状の敷き紙（グラシンまたはカップとも言う）に側面と下面が包まれています（上写真参照）。フンの中から出てきたのは敷き紙の方です。マドレーヌにはシェル（貝殻）型のものもありますが、こちらは敷き紙は使用しません。

この敷き紙のデザインから、マドレーヌの製造元・販売元がわかるかもしれない、と考えたもののなかなか手がかりが得られないままになっています。その調査でわかったのは、マドレーヌはスーパーマーケットにはあまり置かれていないということでした。他にもたくさんのお菓子があるために片隅に追いやられているのかもしれません。マドレーヌは洋菓子専門店で主に扱われているようです。

以上のことから次のようなストーリーが考えられます。このマドレーヌはお土産用あるいは来客に出すお菓子として洋菓子店で購入されました。マドレーヌは家の中で食べられ、残った敷き紙は家庭ゴミとして出されました。そのゴミ袋をタヌキが見つけ、袋を食い破りました。タヌキは敷き紙を食べながら「もぐもぐ…ケーキのようなパンのような味だけど…もぐもぐ…かみごたえが何だか変な感じだな…もぐもぐ、ごっくん」と思ったことでしょう。

商品の性格からすると、敷き紙は路上のポイ捨てゴミではなく、家庭ゴミである可能性が高いです。つまりタヌキは家庭ゴミをあさるという行動をしていることが推測できるのです。

どこの洋菓子店の商品？

マドレーヌの製造元・販売元については今もわかりません。そこで皆様からの情報をお待ちしています。これと同じ柄の敷き紙をご存知の方、あるいはマドレーヌ専門家の方、ぜひこのマドレーヌの身元を教えてください。わかったところで大発見というわけではないのですが、どうにも気になってしまうのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Civet Times

東京ハクビシンタイムズ

2012年4月号　通巻40号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京ハクビシン探検隊！ tokyotanuki.jp

ハクビシン都市進出最前線

隅田川河口域で生息分布拡大中？

（左）永代橋から見た佃。まるで海上都市ように見える。東京を代表する都市景観のひとつと言えるだろう。
（右）中央大橋の下部構造。パイプやキャットウォークが走る。撮影はいずれも2012年2月。

東京タヌキタイムズ2010年7月号で、東京都中央区の隅田川河口域でハクビシンが目撃されていることを紹介しました。その時は、ハクビシンが隅田川西岸をさかのぼっているかもしれない、と推測しました。

ハクビシンその後

その後の目撃情報ではそれ以上北側での目撃例はありません。また、新川や聖路加国際病院近辺での新しい目撃情報も得られました。ということは、ハクビシンが北上しているかのように見えたのは偶然であり、ハクビシンたちは河口域に定住しているものと考えてよさそうです。

さらに驚くことに、隅田川の対岸側の佃、さらに橋を渡った越中島でも目撃情報がありました。ハクビシンは生息分布を広げつつあるのでしょうか、それとも以前から佃などにも生息していたのでしょうか。

2012年2月、私はこの現場付近を歩いてみました。ここは都会のど真ん中ですが、意外にも樹木が多く植えられています。高木あり、低木あり、植え込みあり。かなり意識して緑地を形成しているらしいことがわかります。これらの中にはハクビシンが好む果樹もあるでしょう。この環境なら確かにハクビシンが定住できるかもしれません。

自然環境の乏しい、大都会の象徴のような隅田川河口域ですが、目撃情報からはハクビシンが複数頭生息しているのは確実です。

長い橋を安全に渡る方法

地図を見ていただくとわかるのですが、佃へ行くには必ず長い橋を渡っていかなければなりません。ハクビシンは人間や車が行き交う橋の上を堂々と歩いていったのでしょうか。真夜中なら人間も車も少ないので不可能ではなさそうですが…。

隅田川の河川敷は「隅田川テラス」という名称で遊歩道が整備されています。川の水面を間近に眺めながら散策できるようになっています。私は永代橋から隅田川テラスを下っていったのですが、新川と佃を結ぶ中央大橋の下をくぐる時、あれっ、と思いました。橋の下面ではパイプやキャットウォークが両岸をつないでいるのです。そう、ハクビシンならばここを通って対岸に渡ることなど簡単なことです。しかも、ここなら人間や車を気にする必要はありません。もう一つ下流の佃大橋でも橋の下面は同じような構造でした。この他の大きな橋の下も同じような構造のものが多いのかもしれません。23区東部でハクビシンがタヌキよりも多く生息している理由のひとつがこれなのかもしれません。

今後もハクビシンはこの付近で生息域を拡大するのでしょうか。ますます注目しなければなりません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年5月号　通巻41号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキのしっぽは意外に細い

なかなか見る機会がないその正体

タヌキの尾の外見は太さがあるように見える。
(2010年7月、東京都23区内で撮影)

タヌキの死体の毛が抜けた尾。長さは約15cm。
(2008年、東京都23区内で撮影)

タヌキの尾というと、太くてふさふさしているイメージがあります。実際、上左の写真のようにふさふさふわふわした外見をしています。しかしそれは本当の姿なのでしょうか。

その死体の正体はタヌキ？

以前、私は謎の動物死体を観察したことがあります。なぜ謎かというと、その死体は毛がほぼ完全に抜けていたからです。脱毛の原因は長く水につかっていたからではないかと思われましたが、そんなことよりも正体をはっきりさせることの方が優先です。その動物の足指は4本、そして長い鼻面であることからイヌまたはタヌキであることは明らかでした。ところが脱毛のために体毛の模様がわからず、それ以上の判断が難しかったのです。大きさから言えばタヌキに一致しますが、同じぐらいの大きさのイヌかもしれません。私が一番困惑したのがその動物の尾でした(上右写真)。長さは約15cm。その形は細長いもので、タヌキの尾らしく見えないものでした。しかし、タヌキの尾のふさふさのほとんどが毛であったとしても不思議ではありません。イヌの尾も、飼っている方はご存知でしょうが、本体は細いものです。

この動物の正体は、頭骨標本を作成してようやくタヌキだと確信できました。ということは、あの頼りない細長い尾がタヌキの尾の正体だったのです。

疥癬症なら観察できるかも

タヌキの尾の本体を直接観察できる機会は残念ながらめったにありません。もし可能性があるならば…そういう状況には巡り合いたくはありませんが、疥癬症によって脱毛症状になっている場合に目撃できるかもしれません。疥癬症とはヒゼンダニが皮膚に寄生することで発症する病気です。あまりにも皮膚がかゆくなるために、脚で体をかき、そのために脱毛してしまうのです。疥癬症だからといって必ずしも尾の毛が抜けてしまうわけではありませんが、可能性はあります。

尾の本体が細長いということは、タヌキは毛が長いということを示しています。これは胴体でも同じことです。冬毛のタヌキは丸々と太っているように見えますが、実際は毛が長いために太って見えるだけなのです。また、イヌのように毛が「寝て」おらず、「立って」いるためになおさら毛の長さが強調されることになります。上左の写真は夏毛の成獣です。夏毛は冬毛よりもずっと短いので、タヌキの本当の体型がよくわかります。タヌキは太っている動物ではありません。見た目にだまされてはいけません！

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

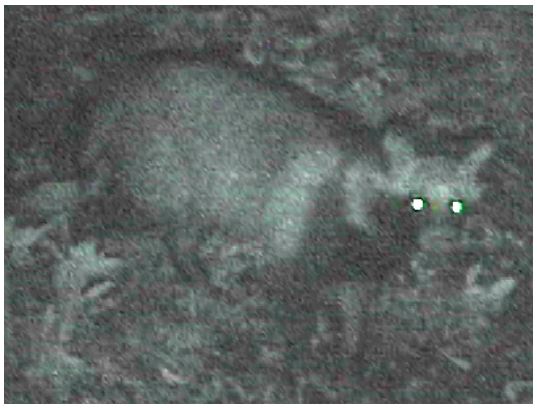
2012年6月号　通巻42号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキを尾行せよ!

ただし、調査方法としては効果的とは言えず



(写真左)矢印の光点がタヌキの眼の反射。その奥には公園の外の道路が見える。(写真右)左とは別の画像。明るさを調整してある。元画像は眼の反射しかわからないほど暗い。(2008年、東京都23区内で撮影)

タヌキの調査方法というと、どのようなものを皆様は考えるでしょうか。タヌキを尾行する方法は、タヌキの行動をずっと監視できるのでとても良さそうなものに思えます。ところが、現実にはそううまくはいかないのです。

タヌキ尾行調査の障害

まず住宅地でタヌキを追跡する場合を考えてみましょう。タヌキは道路をトコトコ歩いていきます。しかし、すぐに民家や企業の敷地に入ってしまうでしょう。それ以上の追跡はできなくなり、尾行は終了です。住民に事情を説明して敷地に入れたとしても、その間にタヌキはまた別の場所へ移動しているでしょう。

では、大きな公園の場合はどうでしょうか。ここなら塀などの障害物が少ないので尾行しやすそうです。ところが、そういう場所は照明がほとんど無いため、タヌキを視認することがかなり困難になります。懐中電灯を持っていたとしても難しいです。この困難は山林などでの追跡でも同じです。また、タヌキは薮の中や側溝の中に入って行くかもしれません。そうなると尾行はできなくなります。

つまり、どこで尾行調査をしようとも実行はかなり難しいことなのです。

実際に尾行してみたら

私自身の尾行調査の経験を紹介しましょう。それは2008年のこと、場所は東京都23区内のある公園でした。ちょっとびっくりするような場所なので、その詳細は伏せることにします。当時の記録によると、追跡時間は約70分。私が歩いた距離は約500mほどでした。500mというとかなりの距離ですが、公園の中をあちこち動き回っていただけです。この尾行の時、まず問題だったのが上にも書いた視認の難しさでした。暗い場所ではタヌキを確認しにくいため、どうしてもタヌキに接近しなければなりません。そのため別の問題も発生しました。それは、タヌキがこちらを気にすることでした。タヌキは明らかにこちらをちらちらと見ていました。途中で大きなガを捕まえましたがすぐにその場を離れました。落ち着いて食事できないようなのです。この経験から、人間が近くにいてはタヌキは普段通りの行動ができない、と私は考えています。移動距離が長くなったのも人間がいたからで、普通ならもっとゆっくりと移動したでしょう。残念ながら尾行は有効な調査方法とは言えません。

尾行に代わる調査方法としては、タヌキに電波発信器やGPS発信器を装着する方法があります。ただ、機械の調達や金額的なことから簡単にできる方法ではありません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年7月号　通巻43号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキをデジカメで撮りたい！

その前に、まずはネコちゃんで練習を

(写真右)今回撮影に使用したPentax OptioWS80。重さ125g。2009年発売。

(写真左)距離4m。画像加工無し。街灯のおかげか明るく写っている。
(写真中)距離5m。レベル補正をしている。街灯が届かない場所なのでかなり苦戦。

東京にタヌキやハクビシンがいるのなら、写真を撮ってみたい！と思われている方はきっといるでしょう。実は私もそうです。ということで、今回は撮影に適したデジカメについて考えてみましょう。

タヌキ撮影に必要なスペック

タヌキ・ハクビシンの撮影で一番難しいのは、いつ、どこで会えるのか予測不可能なことです(しかもかなりの低確率！)。高級なカメラがあればいい写真が撮れるのは当然ですが、重たいカメラをいつもいつも無駄に持ち歩くわけにもいきません。そのため軽量のデジカメをお勧めします。最近のデジカメには重さ100～150g程度の製品があります。スマートホンと同じぐらいの重さです。これならお荷物にならずにいつでも持ち歩くことができます。小型軽量でも最近のデジカメは十分な性能があります。タヌキ撮影だけでなく、日常のスナップ撮影でも役に立つでしょう。

もうひとつ難しいのは、タヌキもハクビシンも夜行性ということです。つまりフラッシュが付いていないとちゃんとした写真は撮れません。携帯電話やスマートフォンに付属のデジカメはフラッシュがないか、あっても非力なので、夜間撮影には向いていません。小型でもフラッシュ付きのデジカメを使うべきです。

とにかく練習あるのみ！

デジカメの準備ができたならば、必ず一度は暗い場所で撮影の練習をしましょう。タヌキの代わりに、ご近所の野良猫にモデルになってもらうといいでしょう(ですので、日頃からネコちゃんとは友好関係を築いておくように！)。

動物を撮影する時は、逃げられる前にすばやく撮らなければなりません。デジカメの設定をいろいろいじってから撮影、というのでは動物はどこかに行ってしまいます。設定はオート(自動で最適設定をするモード)にしておいて、電源を入れたらすぐに撮影できるようにしておきます。カメラを取り出してシャッターを押すまでの動作をスムーズにできるように何度も練習しましょう。

練習の時には、フラッシュの光が届く距離も確認してください。実は小型カメラのフラッシュはせいぜい数mしか届きません。どのくらいの距離なら光が届くのか試してみましょう。

上の写真はネコちゃんを撮ってみた例ですが、やはり暗い場所は難しいですね…。街灯の有る無しでも結果は違ってきます。とにかく実際に自分のカメラで何度も何度も試してみるのが一番の練習です。いつかタヌキに出会える日を夢見て！

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

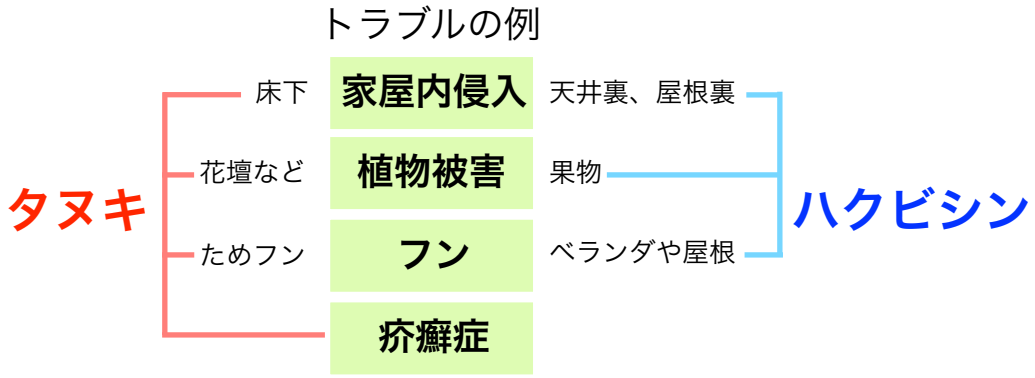
2012年8月号　通巻44号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキとおつきあいするには

対策のガイドラインを公開



サルやシカやイノシシほどの被害はないものの、 タヌキもハクビシンも農業害獣である。都市部でもまったく無害な動物というわけにはいかない。

2012年7月、東京タヌキ探検隊！のホームページ内で「杉並タヌキおつきあいガイドライン(私案)」を公開しました。タヌキやハクビシンは常に無害というわけではなく、時にはトラブルを起こすことがあります。その時どうすれば良いのかの指針をまとめたものです。都市部向けの内容ですが、関心のある方はぜひ読んでみてください。

区がやっていることは適切か

ところで、なぜ「杉並」なのかと皆さん不思議に思われることでしょう。理由のひとつは、私(宮本)が杉並区に住んでいるからです。そしてそれよりも大きな理由は、杉並区役所が独自のタヌキ・ハクビシン対策をしているためです。

野生動物行政を担当するのは都道府県です。区市町村は本来の担当ではありません。ところが、杉並区役所はタヌキ・ハクビシンなどを駆除するために箱ワナの設置を行っているのです。これはもちろん都の指導下に行っていることですので、違法ではありません。捕獲も無制限にやっているのではなく、被害が発生した場合のみに限っています。しかし、それは税金を使ってまでやることなのだろうか、という疑問が出てきます。

また、捕獲数が適切か、ということもあります。年間の捕獲数は、タヌキ、ハクビシンそれぞれ約40頭前後です。杉並区のタヌキの生息数は150頭程度と推測されていますので、捕獲(殺処分)されるのは全体の1/4ほどにもなります。これはタヌキの継続した生息にインパクトを与えるには十分な数ではないでしょうか。では、杉並区役所がタヌキやハクビシンの生息の実態を把握しているかというと、そうでもないようです。東京タヌキ探検隊！の方がずっとよく把握しているはずです。

うまく折り合える方法を

捕獲されたタヌキやハクビシンは原則として殺処分されます。どこか山林に放せば良さそうですが、年に何十頭も放すと現地の生態系に確実に影響を与えます。放す場所を分散させたとしても、その地元から「ここはタヌキ捨て場ではない」と抗議されるでしょう。その他いろいろな理由から殺処分が選択されているようです。

殺処分については「何もそこまでしなくても…」と思う方がたくさんいることでしょう。ならば、私たちはタヌキやハクビシンと折り合いをつけてうまくやっていく方法を考えていかなければなりません。今回公開したガイドラインがこの問題を考えるきっかけやヒントになることを願っています。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年9月号　通巻45号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

タヌキ直接観察場所募集中

継続的な定点観察はタヌキ研究に必要なのです

記事中の直接観察場所の映像を紹介。
(左)家族8頭が同時に出現。左から2頭目は体色が濃く、名付けて「クロベエ」。
(右)夏毛のキュートなお母さん。なぜか私によく近づいた。ここで生まれ育った個体だったのかもしれない。
撮影はいずれも2010年。

東京タヌキ探検隊！はタヌキやハクビシンの目撃情報を収集し、分析することが主な活動になっています。そのため「動物そのものを見てるわけでもないくせに」と誤解されることがあります。現実にはタヌキそのものを直接観察することは(都会に限らず)難しいことであり、まずは目撃情報を収集しなければ調査研究は進みません。そして、私も機会があれば直接観察、センサーカメラ設置、死体収集など現場に行く調査活動を行っています。

直接観察から得られたこと

直接観察の機会はとても少ないものの、私(宮本)は幸運にも2006～2010年にタヌキを継続的に定点観察することができました。その様子はこの東京タヌキタイムズでもたびたび取り上げてきました。その場所はJR山手線の内側地域という、まさに都会のど真ん中です。この場所は地域ネコのエサやり場で、ネコエサを横取りするためにタヌキが現れる場所でした。ネコたちの不利益にならないよう、時にはタヌキたちを牽制しながらの観察にもなりました。

直接観察の利点は、タヌキたちの行動をすぐ近くから観察できることです。子育て中の観察でもあったので、幼獣たちの成長の様子も知ることができました。長時間の映像記録も残せました。

直接観察を続けている内に重要な目的となっていったのが、個体識別です。タヌキは1頭1頭微妙に模様が違っています。確実に、誰でも理解できる見分け方を発見できれば、さらに大きな成果が得られるはずです。ところがこれがかなり難しいのです。模様の違いは非常に微妙で、タヌキ家族が入れ替わり立ち替わり現れると、こちらは簡単に混乱してしまいます。結局のところ、確実な個体識別ができるのは、母親(乳首が見える)あるいは体色が濃い個体(同じ家族の中でも時々現れる)ぐらいでした。これまでのところ、顔まわりの模様で見分けるのが確実そうだ、という仮説にまでたどりつくことができました。ゴールはまだまだ遠そうです。

新たな定点観察拠点は？

残念ながらこの場所は2011年、2012年はタヌキが現れませんでした。何らかの理由で巣の場所を移動したようです。ここでの観察の継続は断念することにしました。

研究を発展させるには継続的に直接観察ができる現場は欠かせません。新たな観察場所を探すのは急務です。もし、長期的な観察に向いた場所をご存知の方はぜひ紹介してください。ただ、観察は夜間にならざるをえないのが難点なんですよね。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

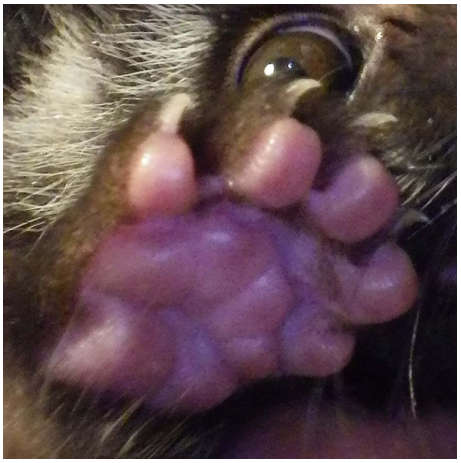
2012年10月号　通巻46号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

ハクビシンの肉球はピンク色

肉球に優れた運動能力の秘密が隠されている？



(左)ハクビシンの右前足。
(右)ハクビシンの左後足。
写真は幼獣だが色、形状は成獣も同じ。
筆者は残念ながらタヌキの肉球の写真は持っていない。イヌを飼っている方はその肉球をご覧ください。タヌキもほぼ同じ形状です。

動物の体で一番観察しづらい部分と言えば、歯と肉球(足の接地面)でしょう。歯は骨になっても残りますが、肉球はそうもいかないので難易度は高めです。ですので、野生動物の肉球を見る機会があるのならそれは絶対に逃すわけにはいきません。

先日、幸運にもハクビシンの肉球を撮影する機会がありました。上の写真がそれです。

「つかむ」ことができる足

ハクビシンの肉球でまずびっくりするのがその色です。毛が無いきれいなピンク色で、まるで人間の赤ちゃんの手を見ているようです。鋭いツメはさすが食肉目動物といったところですが。

ハクビシンは電線を歩くことができる動物です。その秘密がこの肉球にありそうです。肉球部分をよく見ると、はっきりと凹凸があるのがわかります。凹部分はどうやら人間の手のひらのシワと同じようなものらしく、3次元的に掌(てのひら)を曲げることができることを示しているようです。つまり、電線のような曲面でもしっかりと握ることができるのです。ハクビシンが電線から落ちたという話は聞いたことはありませんので、 その握力は十分に強そうです(落っこちそうになった例はありますが、その場合も見事にリカバリーしています)。

イヌやネコを飼っている方はその肉球を観察してみてほしいのですが、イヌ、ネコの掌は平面的で、物をつかむことはできません。これはタヌキも同じです。これらの動物は基本的に地面を速く走る動物であり、そのために特化した掌になっているのです。一方ハクビシンの掌は、地面よりも樹木に登ることに適応した形になっていると言えるでしょう。タヌキとハクビシンがまったく違う方向性を持っていることが肉球からわかるのです。

ちなみにアライグマも電線を歩くことができる動物ですが、こちらは長い指を持つため物をつかむことができるようです。

ハクビシンの肉球を見るには

ハクビシンの肉球を実際に見てみたくなった方もいるでしょうが、自然環境下で見ることはかなり難しいです。動物園へ行って、運良くハクビシンが寝ていて、運良く足がこちらを向いていれば肉球を観察することができるかもしれません。ただしハクビシンは近くにはいないでしょうから、双眼鏡を持参することをお勧めします。私は井の頭自然文化園でハクビシンの肉球を見ることができたことがあります。動物園で寝ている動物を見つけたならば、肉球を観察してみるのも面白いのではないでしょうか。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2012年11月号　通巻47号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

中央区まであと50m

タヌキが中央区に進出する日は来るのか？

(左)「秋葉原事件」の現場である神田川の美倉橋。この橋の下で大捕り物が繰り広げられた。(右)呉服橋交差点(中央区)より西側を見る。赤矢印が「大手町事件」の現場となったJXビル(旧・新日鐵本社)。奥の高架はJR。

東京タヌキ探検隊！が収集した数多くの目撃情報でも、東京都中央区と墨田区では未だタヌキの目撃情報はありません。墨田区ではごく少数が生息している可能性があるものの、中央区では定住は不可能と考えられています。しかし、中央区の間近にまでタヌキが肉薄した事例は複数ありました。

あと少しだった有名事件

まずは2005年11月の「秋葉原事件」です。実際の事件現場は秋葉原からはちょっと東へ離れた、神田川にかかる美倉橋でした。この橋の下にタヌキがいて、水上艇まで出動した末にようやく捕獲されました。もうひとつ下流の橋が中央区との境界線、あと240mほどでした(地上での最も近い境界線までは約160m)。このタヌキ、どこから来たのかは今も謎ですが、一番自然な推理は「神田川を下ってきた」というものです。神田川をさかのぼると確かにタヌキの定住場所があります。

次の事例は2008年12月、JR神田駅近くでの目撃情報です。この時はあと100mで中央区でした。このタヌキは皇居から来たものとみて間違いなさそうです。位置関係からすると一時的に中央区を横切ったかもしれません。

そして、さらに中央区に迫ったのが2010年11月の「大手町事件」です。これは大手町のJXビルの地下入口からタヌキが侵入したという事件でした。ここから西へ道路をまっすぐ行けば皇居の大手門です。このタヌキも皇居から来たのは確実です。事件現場から中央区まではたったの60m！　現場近くをうろついていたならば中央区に足を踏み入れていた可能性はかなり高いです。

定住は不可能？

これらの事例の日付はいずれも11～12月です。つまり、親離れした若い個体が新天地を目指して旅をしていたらしい、ということを意味します。すべてのタヌキが長距離移動するわけではありませんが、まれにかなり遠くへ移動する個体がいるようだ、ということは他の目撃情報からも推測できます。ですから、いずれ中央区に到達するタヌキが必ず現れるだろうと期待できるのです。ただ、そこで定住できるかどうかは別の話で、緑地の少ない、つまり食べ物の少ない中央区で生き延びるのはかなり難しいでしょう。

ところが、ハクビシンはというと以前も報告したように、既に中央区に間違いなく定住しています。緑地を離れられないタヌキに対して、ハクビシンは街路樹なども利用することで都市生活に適応することができているようです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp